

日本人の自然観と花と緑

進士 五十八

市川市20230707

農学博士 環境学・造園学 / 東京農大名誉教授・元学長 福井県立大名誉教授・前学長



① **日本人のアニミズム** (animism : 自然界のすべてに靈魂・精霊の存在をみる信仰)
石 : 磐座磐境 / 木 : 神籬・ご神木・神体山 / 水: 瑞垣 (→日本庭園では、自然石を骨格に据える)。
ガーデンは理想境の意 : garden = gan (圍繞) + eden (悦び)

② **日本人の心と緑の精神性 :**
慈しむ庭の花と緑 (床の間の生花・鉢物) / 包容する里の作物と緑・屋敷林・鎮守・腰当の森
(沖縄くさてのもい) / 畏敬・信仰の山の緑 (山伏修験・富士講)

③ **日本人の生活史にみる自然環境 (四季) との共生**
貴族は万葉植物・四季の庭 (平清盛の福原京) / 武家の大名庭園では「農」を基調 (薬園や井田法など) としつつ、四季宴遊 (花札の12ヵ月に象徴、ex. 花見・月見・観菊)の場所を構成 / 農民は農暦により農耕・春秋の祭 / 市井の民は梅屋敷 (百花園) や日暮里への郊外で物見遊山を楽しむ。そのため、江戸の向島百花園の佐原鞠塙は七草本を板行。春の七草 (セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ)、秋の七種 (ハギ・ススキ・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウ)。日常で身近な植物を評価し親しむのが、過密住居の町人生活の知恵。 / 現代人は緑化活動・自然保護・自然再生・3R・カーボンニュートラル・SDGs。自然+文化+芸術+そして戦争は最大の環境破壊を知る人々は平和運動へ



④ 土地利用

イエ・にわ・その／並木・街路樹・公園・緑地・川／農山漁村の屋敷森・魚付林・田畑・山林など農林地／森林原野・ラムサール条約湿地など原生自然保存地

⑤ 天地人の秩序と宇宙観

人／家（庭屋一如）。地／里・里地・里山・里川・里湖・里海・外山。
天／奥山・月・彼岸・冬至夏至への広がり

⑥ 自然と人間の関係性（心理的効果）

小自然（庭園）：ペットの緑（生命性）／中自然（公園・田園）：家畜の緑（情緒性）／
大自然（国立公園・自然公園）：野生の緑（安定性）

⑦ 緑と人のふれあい方

小自然とは日々日常のふれあい／中自然とは週末のセンセーション
／大自然とは春秋の祭祀・元日遠くから遥拝する伊勢や富士



⑧ 花も緑も本質は同じ—— 生命

- ・ green → ghra (アーリアン語で生長、生命の意)
- ・ 緑 (生物としての自然)、植物、植生、田園都市へと広がり地球環境へ
- ・ グリーンミニマム 自然面率50% (300mメッシュ単位、進士五十八)

⑨ 花と緑の特質はちがう—— 生物多様性

- ・ 樹木 (常緑樹・落葉樹・針葉樹・広葉樹 / 高木・中木・低木 / 陽樹・陰樹)
- ・ 草本 (多年草・一年草 / 雑草) + 地衣類 (蘚苔類...)
- ・ 植物と生き物の共生 (食餌植物と昆虫類・森林性 or 草原性の野鳥)

⑩ 樹木と大地の時間価値とAging の美 (然び、進士十八)

年輪・樹霊 (司馬遼太郎) ・巨樹名木 / 景觀十年・風景百年・風土千年 (竹林征三)
 / 文化的景觀の形成と保全へ (→歴史と文化のまちづくりの意義)